

特集 スポーツいいね！ 人やまちのために

競技としてスポーツに打ち込んだ経験や楽しんだ記憶は、ずっとその人の中に残り続けます。スポーツを通じて自分にできることを模索する人たちを追いまして。

仲間と共に楽しくスポーツをすると仲良くなれる (10代男性)

夫の仕事の都合で住む所が変わってもスポーツを通じて輪ができ、一生の友もできた。体の続く限り楽しみたい (70代女性)

自分ができないスポーツでも応援で盛り上げられるところ (40代女性)

地元と子どもたちを思って

療育特化型放課後デイサービス
代表 永里 源気さん (37・鳶尾)

「ほら、ボールが向こうに行っちゃよ」「上手にゴールできた」。青空の下、グラウンドに元気な声が響き渡ります。子どもたちと一緒に運動を楽しむのは、障がい児向けの放課後デイサービスを運営する永里源気さん。「思いつきで自由に走り回る姿を見るとうれしくなる」と、笑顔で子どもたちを見つめます。

声援を力に

永里さんは、Jリーグや社会人チームで活躍した元サッカー

選手。地方のチームに所属していた頃は、ボランティア活動などで地元と関わりがありました。まちを歩くと地域の方から多くの声援をもらったという永里さん。「応援が自身やチームの大きな力になった。プレイヤー、サポーターなどスタジアムのみならず喜怒哀楽を共有できるのがスポーツの魅力の一つだと感じた」。地域とつながりを持ちながら試合ができる喜びを知った永里さんは、チームが住民から愛され、応援してもらうためにできることは何か考え



子どもたちに楽しいまなざしを向ける永里さん



市内の学校で特別授業を実施

始めました。

地域のためにできること

市内で活動する社会人サッカーチームに移籍してからも、地域貢献への強い思いがありました。まず始めたのは子ども向けのサッカー教室です。スポーツが得意な子どもも苦手な子どももサッカーを楽しむように、レベル別のクラスを用意。「サッカーを通じて、運動する楽しさやコミュニケーションの取り方など競技以外のことにも触れてほしい」と語ります。

いつでも地元や、子どもたちのために行動してきた永里さん。2022年には、市内に療育特化型の放課後デイサービスを開きました。

抛り所になる場所を作る

開所しようと思ったきっかけは13年。障がいのある息子が通っていた施設スタッフの手厚いサポートを見た時です。「ほんのささいなことでも褒めてくれて、いつでも前向きに接して



少人数で伸び伸びと療育を実施

カークチームに移籍してからも、地域貢献への強い思いがありました。まず始めたのは子ども向けのサッカー教室です。スポーツが得意な子どもも苦手な子どももサッカーを楽しむように、レベル別のクラスを用意。「サッカーを通じて、運動する楽しさやコミュニケーションの取り方など競技以外のことにも触れてほしい」と語ります。

試行錯誤の日々

2006年にスポーツ推進委員になり、市のイベントや地域行事の企画・運営などに携わる前田さん。学生時代からスポーツが好きで、バレーボールやバドミントンに親しんできました。18年からセストシューター作りの中心的な役割を担うようになり、

セストシューター

1チーム4人で、攻撃(2人)と守備(2人)に分かれるコート。コートはバドミントンと同じ。試合は前・後半の計9分間。コートの中央にある籠を狙ってシュートする

「引き継いだ時点で約80回の検証を繰り返していた。完成するの不安だったけれど、厚木市発祥のニュースポーツを全国に広めたいと思った」と振り返ります。当時決まっていたルールは、コートが大きすぎやボールの使用、チームで戦うなど大まかなもの。前田さんたちは、より広く意見を集めるために推進委員で試合をしたり、市のイベントで体験ブースを設けたりしました。「実際にやってみると、シュートを入れる籠のサイズやライン際の判断、パスの方法など、問題点が見つかる。みんな考えが違うのでまとめるのが難しかったです」。前田さんたちは、少しずつ改良を重ねていきました。

みんなが知る競技に

スポーツをゼロから作る難しさを乗り越え、約8年間かけて練られたセストシューターも完成が近づいています。「市民の方が笑顔でプレーし、汗を流しているのが開かれるようになってほしい」と語る前田さん。厚木市発祥のスポーツを広めるため、仲間たちと協力する日々は続いていきます。



セストシューター大会の様子



ベタンの様子

スポーツの どんなところが好き？

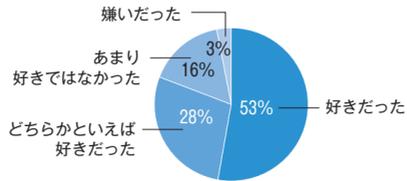
市民の声 voice

皆さんが思うスポーツの良さはなんですか。スポーツに関わっている方や運動を楽しんでいる方に聞きました。

アンケート 「運動を好きな理由は？」

対象 普段運動をしている方
期間 8月1～18日
回答 642件

Q. 幼い頃から運動が好きでしたか？



運動を好きになったきっかけは？

卓球を始めてから運動が好きになった (10代女性)

運動神経が悪くて苦手だった。スポーツクラブで水泳を習うようになって、運動が好きになった (70代女性)

大学時代のサークルが楽しかったから (30代女性)

体育館のジムでエアロビクス体操の時間があり、適度な汗をかけた時の爽快感が良くて好きになった (60代男性)

妻を亡くし、家に一人で閉じこもるのが良くないと気が付きスポーツクラブに入部して大変楽しい

応援する人と選手がつながれる

スポーツボランティア 坊良 節子さん (63・王子)



15年前、体育振興会であつぎマラソンのボランティアをした際、ランナーの集団が走って行くところを見て、なんて楽しそうなんだろう！と衝撃を受けました。それまで運動とは無縁でしたが、私も走りたいと思いウォーキングを始め、ボランティアにも申し込みました。

東京五輪や東京マラソンのボランティアなど、何度も経験しましたが、やはりマラソンが好きです。道沿から声援を送るとありがとう！と声が返ってきたりハイタッチに応じてくれたりと、選手とつながれることが魅力です。元気をもらえる私のライフワークです。

嫌いだった運動が自信に

フェンシングクラブ運営 坂場 和代さん (55・恩名)



幼い頃から駆けっこはビリ、逆上がりもできなくて、体育の時間が嫌いでした。高校生の頃、アメリカ出身の英語教師に誘われ、ジムでトレーニングをしたら体つきが変わって、私にもできる！と自信になり、ランニングなどの運動を始めました。

娘も私と同じく運動が苦手でおとなしかったのですが、フェンシングに出会うとのめり込み、全日本選手権にまで出場。娘のためになればと私も習い、練習相手をしているうちに自分が楽しむようになりました。昨年娘と立ち上げたクラブには、運動に自信のない子も来ますが、できることを見つけると自信がついて、よく笑い、明るくなっていきます。運動は苦手と思っている人にこそ、合うスポーツを見つけたいです。

どんな人とも一緒に楽しめる

湘南ベルマーレサポーター 花田 佑輔さん (34・愛甲西)



年に6回ほど家族でサッカー観戦に行っています。サッカーは未経験でしたが、職場の先輩が観戦に誘ってくれたのがきっかけでチームや選手の魅力を知り、ベルマーレを応援するようになりました。一生懸命なチームの姿勢が好きで、最後まで走り続ける選手の頑張りにはいつも勇気もらっています。

最近では、子どもたちと試合を見て応援歌を歌ったり、タオルを振ったりと一緒に応援しています。家族みんなで夢中になり楽しめるのがうれしいです。年齢や立場の違う人と同じ気持ちになって応援できることがスポーツの魅力だと思います。



ディフェンスを避けて籠を狙う前田さん